

平和教育－呉空襲犠牲者慰霊・恒久平和祈念の日－

広島県立呉三津田高等学校

1 平和教育の取組の概要

昭和20年に大きな被害を呉市にもたらした6回の呉空襲を題材として、8時25分からの15分間を使って、全校生徒を対象として平和教育を実施している（年1回）。主な内容は次の2点である。

- ① 実際に空襲を体験された方の手記を中心とした朗読番組を、校内放送により各ホームルームに流す（本校放送部による制作及び朗読）。
- ② 各ホームルームにおいて、呉空襲に係る史料、用語解説等を中心とした資料を活用し、ホームルーム担任が呉空襲について説明し、生徒の思考を促す。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

呉市では、昭和20年の呉空襲で犠牲になられた方々の冥福と恒久平和の確立を祈念するため、7月1日を『呉空襲犠牲者慰霊・恒久平和祈念の日』と定め（昭和60年）、関係の職場・家庭などにその趣旨の周知を図り、黙とうの実施等の協力を求めている。このことを受け、本校においても、7月1日に全校生徒を対象に呉空襲について知り、恒久平和について考える学習を実施している。

(2) 指導のポイント

- ☆ 生徒が恒久平和について考え、平和を維持していく担い手となるよう、歴史的事象を知ること、その事象について自分との関わりの中で考察することを学習の中心として、指導計画を作成し、実践する。（付けさせたい力3）
- ☆ ①呉市で起きた空襲であること、②『体験手記集 呉を語る』、『呉戦災 あれから60年』等に記載されている空襲体験者、とりわけ生徒と同年代の時に空襲を体験された方の手記を引用すること、③身近に数多く建立されている慰霊碑を取り上げること、以上3点の工夫により、生徒が身近な問題として考えることができる。
- ☆ 本校放送部が作成し、朗読する番組を、生徒全員で聞くことにより、生徒が意欲的かつ共に平和について考えていくことができる。

3 指導計画

(1) ねらい

戦争の悲惨さを知り、戦争の犠牲者を悼むことを通して、平和であることの大切さを理解するとともに、恒久平和を求め続ける態度を身に付ける。

(2) 対象学年 全学年

(3) 学習内容

平和教育の実施において、本校放送部の活動が大きな役割を果たしている。実施当日の数週間前から準備を始め、呉空襲体験手記集の中から選ばれた手記をもとに、朗読する生徒を選出し、放送部全員で効果音やBGMの工夫を凝らし、一つの作品に仕上げていく。放送部顧問の指導を経て、本番用のCDを完成させ、当日放送するのが例年の流れである。

今年度については、臨場感と緊張感をより演出したいという意図から、放送室からの生放送で実施し、成果をあげることができた。取組の概要については、次のとおりである。

学習活動	指導上の留意事項
<ul style="list-style-type: none">本校放送部が制作、朗読する校内放送（『体験手記集 呉を語る』に掲載されている手記「工廠で被爆して家を焼かれて－女子挺身隊の体験－」の一部を引用した朗読番組）を、生徒全員が各ホームルームにおいて聞く。平成20年6月22日、朝9時20分頃からおよそ1時間続いた呉空襲について、当日の様子がうかがえる資料を基に、呉空襲の悲惨な状況（女子挺身隊や女子学徒の犠牲者476名）について知る。呉市内の鍋山峠近くに建立されている慰霊塔について、資料を基に塔に込められた市民の思いや願いについて理解し、このような惨禍が二度と起きないことを祈るとともに、恒久平和について考える。	<ul style="list-style-type: none">放送の前に、「呉空襲犠牲者慰霊・恒久平和祈念の日」にかかわって、本校放送部が製作した番組を、本校放送部が朗読することを伝える。資料は、生徒が空襲（戦争）や平和について理解し、考えるためのものであることを踏まえ、資料の解説に終わらないようにする。恒久平和について自分たちができることについて考えさせ、互いに交流させる。

4 生徒の反応（授業後の感想等）

- 校内放送については、呉市で実際に起きた出来事であること、青春時代に体験した凄惨な状況が克明に描かれていること、本校放送部が作成し朗読していることもあり、生徒全員が真剣に放送を聞いていた。
- 資料を基にした学習についても、生徒は、当時の呉の状況と、平素から自分たちが目にしている慰霊塔を結び付け、また先ほど聞いた放送番組の中身も踏まえながら、戦争というもの、平和というものについて考えを深めていた。
- 学習後しばらくたって、呉空襲や平和などについて、生徒どうしの日常的な会話の中で話題にされているのが見受けられた。
- 放送部の生徒は、放送で役を演じ、当時の呉市民の苦しみを追体験することを通して、それまで知識としてだけの捉えだった呉空襲を、より実感を伴った疑似体験として捉えることができるようになった。また、放送を通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくことの大切さをより意識するようになった。